

<総評>ひと月の投稿数に制限が加えられるようになって、心なしか作品のレベルがアップしたように感じます。総評に取り上げたい作品数も多くなりました。絞ることによって現れた良い影響でしょうか。

打ち明けるべき

こと

幾多降り積もり

かいがらぼねへしずめる遺跡

さいう 石川県

——胸の思いがサンゴのように層をなして積もっていくイメージを「かいがらぼね」と「遺跡」という言葉でリフレインのように再現してみせた。纏まりの良い作品。

諦めた蕾からほどける日向

奎いう子 佐賀県

——蕾が開くときは花内部の水分が先端に集まり、浸透圧の原理で急激に押し開かれる。抵抗不可能な力によってほどける花びらの、エロスを感じさせる動きを「諦めた」と表現した。

フットボールが

強くなりたいなら

蹴るという行為の内に

否定文を見出すことだ

大嶋 碧月 石川県

——蹴るという攻撃の行為のなかに、実は攻撃ではなく、相手の死角をすり抜ける、或いは相手の力を利用する「～しない」という否定文が隠れていることの発見。

せいじんと打てば

星人あらわれる二十五歳の

Google Pixel

汐見りら 東京都

——「成人」ではなく「聖人」でもなく「星人」という新しい語彙を定着させて、日本中

の二十五歳の代表になる。

除け者にされた獣の毛が詰まり
鍵が奥まで入らない星

常田 瑛子 山口県

——鍵は文字通りの鍵のほか「手がかり」や「成否のポイント」をいう。いま、地球がうまくいかないのは人間を含む「除け者にされた獣」の毛が詰まっているから。そうでなければ鍵が働くはず。

ぺんぺん草と呼ぶモザイク
で手首の動脈を隠し

て

い
る

金光 舞 埼玉県

——ぺんぺん草は細い茎からたくさん枝分かれをして模様を作る。手首を隠しているのは細い傷跡の模様だろうか。

洗濯物の向こうに金星を見る
できない約束はしないと誓う

寸草 東京都

——金星は美の象徴ヴィーナス。生活の象徴洗濯物の向こうに見える理想の存在。だからできない約束はしない。

踊り子の
骨の残り火吹く
うみべ

秋山颯汰朗 群馬県

——この世での自分の「踊り」を精一杯踊り、いさぎよく骨となる。思い出の残り火を掻き立てて最後の骨灰を海へと送る哀切。

青い薔薇 ちゃんとわたしが
怒るのに要る歳月と喉の筋肉

高田皓輔 千葉県

——怒るべき事を的確に怒る。その背景の真実を理解するのは至難のわざであり、人生の年輪と歳月がある。その難しさと稀少さを「青い薔薇」で表している。

幽体がわたしを去ってゆく夜は
触れておきたいひつじのあたま

石村 まい 兵庫県

——お世話になりました羊さん。もう私は一人で眠れるようになりました。

ばんだの絵
塗るのかんたん
日向ぼこ

絵巻 東京都

——塗り絵を喜ぶのは幼児かお年寄り。日向ぼこは多分後者。この上なくシンプルに適格に高齢者の生活を捉えている。

包丁の寝てても立っている感じ

おかもと 石川県

——刃物はもともと「立てる」という言葉に縁がある。比喩的に「決意を表す」ことや「脅す」意味があり、この詩句は包丁の持つ眠らない感じが伝わってくる。

卵かけご飯に箸を突き立てて
そう、アポロ計画を否定する

快名 千葉県

——なるほど、月見ごはんに箸をずんと突き立てて抗議。絵がまざまざと見える。

黙祷の間に鳴った炊飯器の
キラキラ星をずっと聞いている

曾我 門出 新潟県

——普段は記号としての電子音に囲まれた日常だが、黙祷という非日常の行為の中で、その音が不意に音楽に戻る。

一掴みカットわかめを水に入れ
お戻りなさい
帰れない海

千代子レイトショー 千葉県

——食物には皆ふるさとがあり、そこで育って私たちの血肉になる。カットわかめも、もうもどれない海のつかのまの幻を見る。

目の裏の 暗さは似てる 水底に
沈むわたしの 腸の永きに

水底 北海道

——非常に「暗い」詩句。光の届かない目の裏の暗さ。暗黒の水底に沈む「わたし」の内臓は最も暗い。本来、光にま向かう目なのだが、反転はあるのだろうか。